

【創育クリエートメールマガジン vol.2】 [グローバル人材の育成]

2018.2.2 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第1回「2020年大学入試改革」はいかがでしたでしょうか。

第2回は、「グローバル人材の育成」がテーマです。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

現在123校が指定を受けているスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)は、初年度に指定を受けた学校が2018年度に指定最終年度を迎えます。

指定の有無に関わらず、SGHのスタートは、グローバル人材育成の取組みを活性化させるきっかけとなったのではないのでしょうか。

現在、日本企業の海外拠点数は10年前の2.2倍にまで増加。近年のビジネスのグローバル化が以前と異なるのは、企業規模に関わらない点です。

新興市場に活路を求める中小企業は益々増え、ベンチャー企業も、スタートアップ時から海外市場を目指すもの、オープンイノベーションで海外企業と提携するものなど、視線の先は海外にあります。

グローバル化は国内においても急速に進んでいます。昨年のインバウンド消費は4兆円超。日本で学ぶ留学生は10年前の2.3倍で27万人。

外国人労働者は一昨年108万人に達し、全就業者数に占める依存度は1.7%にまで上昇しています。さらに統計にのらない外国人労働者は20万人とされています。こうして見ると、グローバル化に対応することは、一部の人に求められものではなく、これからの日本に生きる全ての人に必要なことであると言えるのではないのでしょうか。

さて、「グローバル人材」の要件とは何でしょうか。文科省は「日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野にいれた社会貢献の意識などを持った人間」^{※1}と定義しています。高大接続改革で示された学力の3要素(a. 知識・技能の確実な習得 b. aを基にした思考力・判断力・表現力 c. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)の育成は、まさにこうしたグローバル人材育成につながるものであると言えます。

一方、ビジネスの現場ではどのようにとらえられているのでしょうか。ライフネット生命創業者出口治明氏（現立命館アジア太平洋大学長）は、

グローバル人材の要件を a. 未知の世界に飛び込める行動力 b. 最後までやり抜くタフネスさ c. 自分の頭で考え課題を解決する能力、としています^{※2}。

思考力や問題解決能力とは異なり、行動力やタフネスさは、グローバル人材に必要な“マインドセット”だと言えるかもしれません。

スキルとマインド。その両方が兼ね備わってこそグローバル人材。高校 3 年間の教育活動を通して、こうしたスキルやマインドをどのように育てていくのか。10 年先、20 年先、生徒たちがどのような社会を生きていくのかというインサイトを基に、明確なビジョンを持ち、計画・実行していくことが喫緊の課題となっています。

※1 産学連携によるグローバル人材育成推進会議 最終報告

※2 ダイヤモンド・オンライン 2012 年 7 月 31 日

(執筆：森上教育研究所アソシエイツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については末尾の E-mail アドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋 3-24-3

T E L . 03-5472-5772

create@soiku-c.co.jp